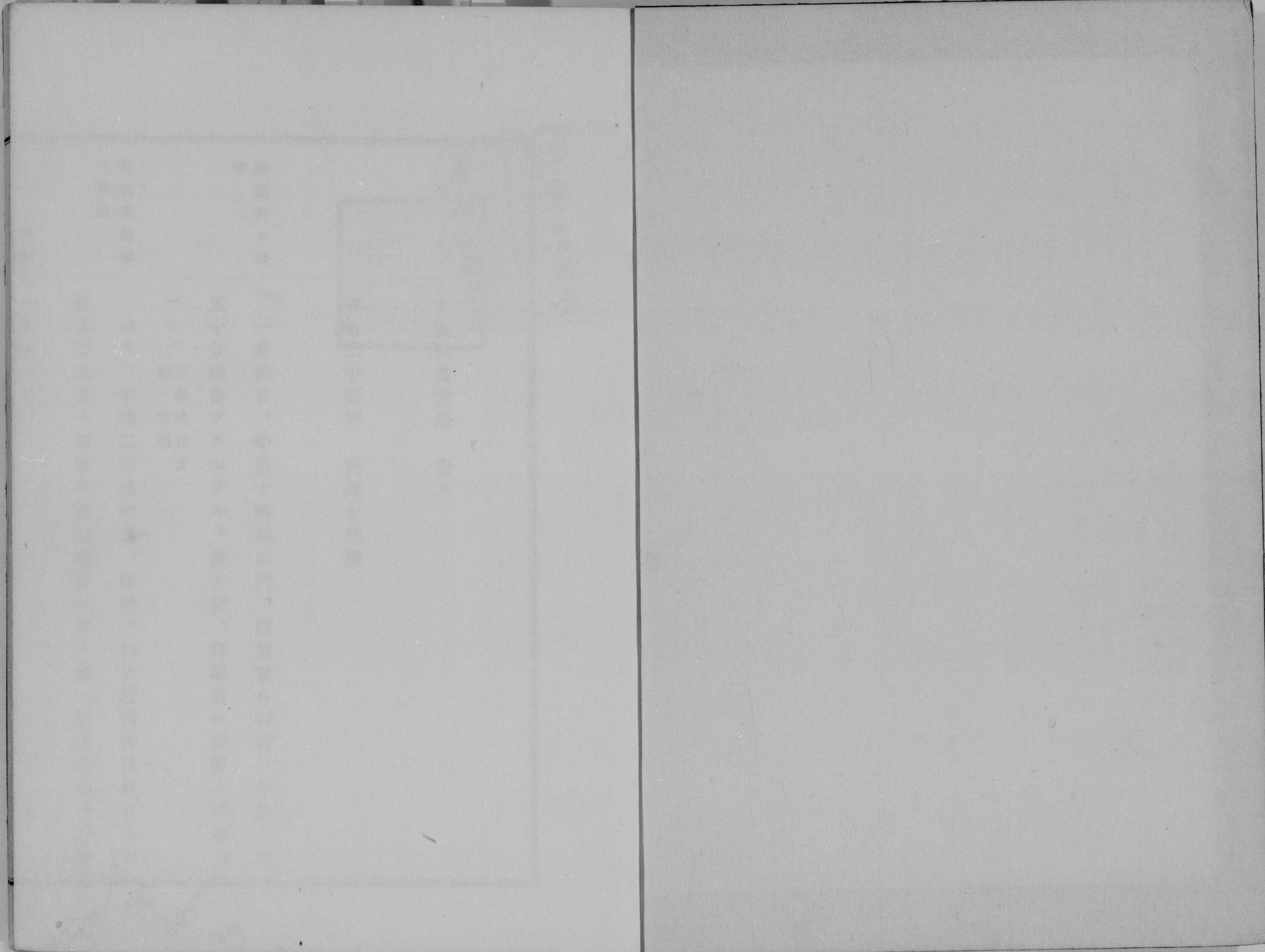


3201 287



補入

イ、平、永、字、
素、口、字、各、

✓ 直、マ、リ、

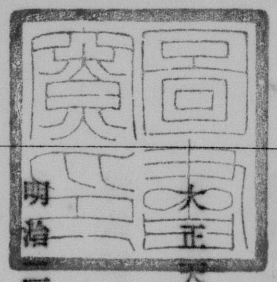
✓ 増、マ、リ、

伊、豆、山、ア、ラ、シ、
ト、ハ、リ、ヨ、ク、

大、西、流、行

伊、豆、山、ア、ラ、シ、
ト、ハ、リ、ヨ、ク、

3201 288



大正 實錄 卷八

明治二十四年 實算十三歲

濱離宮ニ行啓

一月四日、午前十時御出門、濱離宮ニ行啓、午後三時五十分還啓アラセラル。是ノ歲、同離宮ニ行啓ノ事屢

アリ。侍從武官日記・官報

近衛將校等ニ賜錢

六日、午後二時三十分、昨年ノ如ク近衛將校竝ビニ同相當官二百十五名ヲ赤坂離宮ニ召シ第一旅團長陸軍少將

明治二十四年一月

Handwritten notes and stamps at the top of the page, including checkmarks and vertical text.

Handwritten notes and stamps at the bottom of the page, including vertical text and a date '大正三年'.

3201 290

明治二十四年一月

四

御用邸ノ位

ナレバ、萬事ニ御不都合ナク御備附アリ。御殿ハ市街ノ西南隅ニアリテ東南ニ向ヒ、東ハ三浦岬房州ヲ雲烟ノ間ニ望ミ、南ハ大島噴烟ノ噴霧タルヲ見ル。他ノ三方ハ山嶺ヲ以テ圍繞スル故ニ朔風ノ凜ヲ防ギ南風ノ薫ヲ受ク。

殿下ノ御日課ハ平常學習院ニ御通學アラセラルル如ク、日々五時間ヅツ午前八時ヨリ午後三時迄御修學アラセラルレ、毎夜御復習ヲモアラセラル。御學友ニハ高崎益彦。西郷從義。甘露寺受長ノ三名陪學ス。又學習院御課程ノ外ニハ昨年夏駿州興津清見寺ニ御

圖書寮

軍政ノ大意
ヲ御修學

旅行アラセラレシ節、曾我御教養主任ヨリ我國現在軍政ノ大意ヲ御習ヒアラセラレシガ、熱海御旅行中モ是非學ビタシト仰セラレシ故、一週二時間ヅツ御習ヒ遊バサレ、近衛師團。鎮守府等ノ編制ヨリ歩騎砲工輜重兵ノ配置、武官ノ名稱等陸海軍政ノ概略ヲ御修學アラセラレタリ。又御體育トシテ毎夜陸軍柔軟體操ヲ東宮武官ヨリ御練習アラセラルレ、時々御教養主任ヨリ御歴代ノ御謄號ノ讀方等ヲ御習ヒ遊バサレ、時々御學問ノ御慰トシテ動物。地理。歴史ノ書ヲ幻燈ニ寫映シテ御説明申上タルニ、歴史書ニテハ

明治二十四年一月

五

大ニ馬ノ寒流行

トモハ、ハ、ヨリ、コ

本又

3201 291

御體育ノ御發達

神武天皇鳥見山ニ於テ皇祖天神ヲ祭り玉フ書、隈爾
 天皇寒夜御衣ヲ脱シ玉フ書及ビ日本武尊ノ熊襲及ビ
 東夷御征伐ノ映畫ノ説明竝ビニ象虎等ノ説明ハ、殿
 下御自身ニテ御説明アラセラレタリ。又御旅行中ハ
 三陸下ヘ時々御書ノ認方等モ御練習アラセラレタリ。
 御遊戯ハ風吹ク時ニハ御庭前ニテ紙鳶ヲ揚ゲサセ玉
 ヒ、和氣輕暖ノ日ニハ御日課後ヨリ近傍ノ勝地ナル
 觀魚臺・錦ノ浦・横磯・梅園等ニ行啓アラセラレ、
 雨天ニハ室内ニテ鬼追子・盲目鬼等ノ御遊戯アラセ
 ラル。御體育上ハ昨年一月ノ御旅行ニ比スレバ、僅

圖書寮

御健脚ニ涉ラセラレ

カニニケ年ノ歲月ナレドモ、御運動ノ模様及御支體
 ノ習練非常ニ御發達アラセラル。昨年ノ旅中ハ紙鳶
 ヲ揚ゲサセラルルモ多クハ近侍ニ命ジテ揚ゲサセ御
 慰アリシニ、本年ハ御自身ニ御揚ゲ遊バサルヲ御
 樂ト致サセラレ、鬼追子等ノ御遊ニモ御手足ノ運動
 至極御活潑ニアラセラル。郊外御散歩ノ節モ鳥銃ヲ
 携ヘサセラレテ時々御自身ニテ發銃アラセラレシガ、
 或ル日雀一羽鶉一羽ヲ御撃チ遊バサレタリ。或ル日
 曜日午後一時御出門ニテ網代路ノ念佛峠ニ御登山ア
 ラセラレシ、念佛峠ハ御料地ヨリ一里半ニ近ク、坂

補入
 春の序
 鳥の羽
 鳥の羽

他ノ記録ヨリ引用
 ノ修訂ヲナスルニ非
 信テハ以下右ノ前提
 觀魚臺ハ前
 大ノ西ノ流
 トモハハヨリ

神武天皇鳥見山ニ於テ皇祖天神ヲ祭り玉フ齋、隈爾
 天皇寒夜御衣ヲ脱シ玉フ齋及ビ日本武尊ノ熊襲及ビ
 東夷御征伐ノ映書ノ説明竝ビニ象虎等ノ説明ハ、殿
 下御自身ニテ御説明アラセラレタリ。又御旅行中ハ
 三陸下ヘ時々御書ノ認方等モ御練習アラセラレタリ。
 御遊戯ハ風吹ク時ニハ御庭前ニテ紙鳶ヲ揚ゲサセ玉
 ヒ、和氣輕暖ノ日ニハ御日隈後ヨリ近傍ノ勝地ナル
 觀魚臺。錦ノ浦。横磯。梅園等ニ行啓アラセラレ、
 雨天ニハ室内ニテ鬼追子。盲目鬼等ノ御遊戯アラセ
 ラル。御體育上ハ昨年一月ノ御旅行ニ比スレバ、僅

御體育ノ御
發達

御健脚ニ涉
ラセラレ

カニニケ年ノ歲月ナレドモ、御運動ノ模様及御支體
 ノ習練非常ニ御發達アラセラル。昨年ノ旅中ハ紙鳶
 ヲ揚ゲサセラルルモ多クハ近侍ニ命ジテ揚ゲサセ御
 慰アリシニ、本年ハ御自身ニ御揚ゲ遊バサルヲ御
 樂ト致サセラレ、鬼追子等ノ御遊ニモ御手足ノ運動
 至極御活潑ニアラセラル。郊外御散歩ノ節モ鳥銃ヲ
 携ヘサセラレテ時々御自身ニテ發銃アラセラレシガ、
 或ル日雀一羽鷺一羽ヲ御撃チ遊バサレタリ。或ル日
 曜日午後一時御出門ニテ網代路ノ念佛峠ニ御登山ア
 ラセラレシ、念佛峠ハ御料地ヨリ一里半ニ近ク、坂

「御登山アラセシレハ、終ニ型ナリ
 トモハ、」ヨリヲ用フヘキカ
 東京村也常備者

他ノ記録ヨリ引用セル文ニ在リテモ多少
 ノ修訂ヲ可トスルニ非スヤ 本引用文ニ
 付テハ以下右ノ前提トシテ付ス
 觀魚臺ハ前ノ觀魚臺トテハ何レニモ

3201 293

紙製輕氣球
飛揚ヲ好ミ
給フ

路頗ル嶮惡ニシテ隨行ノ御學友モ隨分疲勞ヲ覺エシ
ニ、殿下ハ最ト安キ事ニ思召サレ頂上ニテ暫ク御休
息アリテ、御歸路モ御活潑ニ御歩行アラセラレタリ。
御旅中一ノ御慰トナサレシハ、郊外ニ於テ紙製輕氣
球ヲ揚ゲサセ玉フコトニテ、初メハ東京ニテ製シタ
ル小輕氣球ヲ御揚ゲアラセラレシニ、近侍ノ面々工
夫ヲ凝シ種々ノ人形ヲ製シテ空中ニ飛揚セシメシガ、
遂ニ縦一丈五尺横徑八尺ノ大輕氣球ヲ製シ、下方ヨ
リ糸ヲ垂レ、其糸ノ端ニ銅或ハ鉛ノ模形ヲ吊シ、其
中ニ日章旗。人形。赤白ノ長旗等ヲ入レ、火繩ニ火

圖書寮

熱海ノ氣候
御健康ニ適
ス

ヲ點ジ、空中ニ揚リテ開放スル裝置ヲナシ、高サ六
七百メートルニ至リ開放スレバ、種々ノ品物翻々ト
シテ空中ヨリ舞フテ降ル、實ニ巧ナル工夫ナリキ。
熱海ノ氣候ハ東京ニ比スレバ華氏寒暖計ニテ十一二
度モ暖和ニシテ、殿下ノ御健康ニ恰適スル故カ、御
滞在中ハ御學友ニハ多少ノ輕恙アルニモ係ハラズ、
殿下ニハ御風氣ノ御氣味モアラセラレズ、御活潑ニ
御運動アラセラルル故、御食量モ平常ヨリハ多ク召
サセラレ、御體量モ御滞在中ニ貳百拾匁増サセラレ
シ趣、御入浴ハ毎日一回午後八時頃ニ召サセラル。

大正三年流行

3201 294

明治二十四年一月

一〇

御孝心深ク
涉ラセラル

今回御旅行中ニテ最モ喜バシキハ、殿下ノ御健康ノ
一層勝レサセラレシ證據ナリ。其證ハ御服ノ破損多
キコトニテ、侍從ニテ兼テ御旅行中ノ御服ハ充分ニ
豫定致シ置キシニ、御服モ汚レ多ク御靴下等ハ一兩
日ニテ破損セシ故、御旅行中更ニ東京ヨリ御服二領
御靴下十二足取寄セラレシ趣ナリ。
殿下ハ御孝心ノ御心深ク、熱海行啓ノ節聖上皇后兩
陛下ニハ、少シク御風氣ノ御容體ニアラセラレシカ
バ、深ク御心配アラセラレ、熱海御著ノ翌日御書ヲ
以テ御機嫌伺ハセラレ、尙侍醫局ニ仰付ラレ日ニ御

圖書寮

御仁慈ニ涉
ラセラル

元田永孚・
三條實美ノ
薨去ヲ御痛
悼

容體ヲ奏上セシメサセ給ヒキ。又御仁慈ニ渡ラセラ
ルル故、二月初旬東京ニテ流行感冒烈シク傳染セシ
カバ、學習院モ如何ナラント仰セラレシヨリ、學習
院ニ問合セントセシニ、折節高島學習院御用掛ヨリ
感冒傳染ニ付、院中委細ノ手紙到來セシカバ、其趣
ヲ詳細ニ言上セシニ、殿下ノ仰ニ「ソレハ學習院ハ
大變デアアル、皆充分養生セヨト申セ」ト仰セラレタ
リ。其後元田樞密顧問官薨去サレ續キテ三條内大臣
薨去サレシカバ、大ニ殿下モ御痛悼アラセラレタリ。
又長瀬陸軍中尉ハ久シク東宮武官タリシガ、去一月

明治二十四年一月

一一

大ニ三條實美流行

御孝心ノ御心深ク
涉ラセラル

明治二十四年一月

一〇

御孝心深ク
涉ラセラル

今回御旅行中ニテ最モ喜バシキハ、殿下ノ御健康ノ一層勝レサセラレシ證據ナリ。其證ハ御服ノ破損多キコトニテ、侍從ニテ兼テ御旅行中ノ御服ハ充分ニ豫定致シ置キシニ、御服モ汚レ多ク御靴下等ハ一兩日ニテ破損セシ故、御旅行中更ニ東京ヨリ御服二領御靴下十二足取寄セラレシ趣ナリ。
殿下ハ御孝心ノ御心深ク、熱海行啓ノ節聖上皇后兩陛下ニハ、少シク御風氣ノ御容體ニアラセラレシカバ、深ク御心配アラセラレ、熱海御著ノ翌日御書ヲ以テ御機嫌伺ハセラレ、尙侍醫局ニ仰付ラレ日ニ御

圖書寮

御仁慈ニ涉
ラセラル

元田永孚・
三條實美ノ
薨去ヲ御痛
悼

容體ヲ奏上セシメサセ給ヒキ。又御仁慈ニ渡ラセラルル故、二月初旬東京ニテ流行感冒烈シク傳染セシカバ、學習院モ如何ナラント仰セラレシヨリ、學習院ニ問合セントセシニ、折節高島學習院御用掛ヨリ感冒傳染ニ付、院中委細ノ手紙到來セシカバ、其趣ヲ詳細ニ言上セシニ、殿下ノ仰ニ「ソレハ學習院ハ大變デアアル、皆充分養生セヨト申セ」ト仰セラレタリ。其後元田樞密顧問官薨去サレ續キテ三條内大臣薨去サレシカバ、大ニ殿下モ御痛悼アラセラレタリ。又長瀬陸軍中尉ハ久シク東宮武官タリシガ、去一月

明治二十四年一月

一一

今回御旅行中ニテ最モ喜バシキハ、殿下ノ御健康ノ
一層勝レサセラレシ證據ナリ。其證ハ御服ノ破損多
キコトニテ、侍從ニテ兼テ御旅行中ノ御服ハ充分ニ
豫定致シ置キシニ、御服モ汚レ多ク御靴下等ハ一兩
日ニテ破損セシ故、御旅行中更ニ東京ヨリ御服二領
御靴下十二足取寄セラレシ趣ナリ。

殿下ハ御孝心ノ御心深ク、熱海行啓ノ節聖上皇后兩
陛下ニハ、少シク御風氣ノ御容體ニアラセラレシカ
バ、深ク御心配アラセラレ、熱海御著ノ翌日御書ヲ
以テ御機嫌伺ハセラレ、尙侍醫局ニ仰付ラレ日ニ御

御孝心深ク
涉ラセラル

圖書寮

御孝心ノ御心深クハ至文ニ由リ
又ナシモ 訂正ノ要ナキ

御仁慈ニ涉
ラセラル

容體ヲ奏上セシメサセ給ヒキ。又御仁慈ニ渡ラセラ
ルル故、二月初旬東京ニテ流行感冒烈シク傳染セシ
カバ、學習院モ如何ナラント仰セラレシヨリ、學習
院ニ問合セントセシニ、折節高島學習院御用掛ヨリ
感冒傳染ニ付、院中委細ノ手紙到來セシカバ、其趣
ヲ詳細ニ言上セシニ、殿下ノ仰ニ「ソレハ學習院ハ
大變デアル、皆充分養生セヨト申セ」ト仰セラレタ
リ。其後元田樞密顧問官薨去サレ續キテ三條内大臣
薨去サレシカバ、大ニ殿下モ御痛悼アラセラレタリ。
又長瀬陸軍中尉ハ久シク東宮武官タリシガ、去一月

元田永孚・
三條實美ノ
薨去ヲ御痛
悼

3201 297

下旬近衛ニ轉任シ、殿下遷啓ノ後始テ御機嫌伺ニ出
 デ拜謁仰付ラレシ節、殿下御用品ノ提籠ヲ賜ハリ、
 暫時默然トシテ御机ニ向ハセラレシカバ、長瀬ハ拜
 辭シテ侍從ノ詰所ニ退キシニ、少時ニシテ再ビ召サ
 セラレ、御學問所ニ御出アラセラレ劔製ノ鴛鴦ト鷹
 トヲ賜ハリ、之ヲ小供ニ遣レト仰セラレタリ。長瀬
 ハ難有キ思召ナレドモ、殿下ハ當時動物ヲ御學ビア
 ラセラルル故ト云ヒモアヘズ、殿下ハ余ハ既ニ此等
 ノ鳥類ヲ學ビ終リタレバ、トテ其御品ヲ賜ハリシト
 云フ。

圖書寮

今度ハ五十三日間ノ長キ御旅行ナレドモ、一日トテ
 モ御不例モ在ラセラレズ、御機嫌慶敷御健康日ニ勝
 レサセラレ、御旅行ノ道スガラ東京トハ人民ノ風俗
 山川ノ景色等異ナレバ、御見聞上ニ於テ都鄙風俗ノ
 異同ヨリ、山海・田野・村落等ノ地理ニ至ル迄、御
 感覺ヲ新ニシ玉ヒシコトモ多カラン。殊ニ東京ニハ
 一月以來惡寒流行ノ折柄ナレバ、御旅行ハ最モ好都
 合ニアラセラレ、遷啓後モ引續キ學習院ニ御通學ア
 ラセラレ、昨年九月始業ヨリ一日モ御缺席アラセラ
 レズ候ヘバ、先ノ第二學期ノ試験ニハ御同級生拾六

東京女子高等學校

下旬近衛ニ轉任シ、殿下還啓ノ後始テ御機嫌伺ニ出
 デ拜謁仰付ラレシ節、殿下御用品ノ提籠ヲ賜ハリ、
 暫時默然トシテ御机ニ向ハセラレシカバ、長瀬ハ拜
 辭シテ侍從ノ詰所ニ退キシニ、少時ニシテ再び召サ
 セラレ、御學問所ニ御出アラセラレ劍製ノ鴛鴦ト鷹
 トヲ賜ハリ、之ヲ小供ニ遣レト仰セラレタリ。長瀬
 ハ難有キ思召ナレドモ、殿下ハ當時動物ヲ御學ビア
 ラセラルル故ト云ヒモアヘズ、殿下ハ余ハ既ニ此等
 ノ鳥類ヲ學ビ終リタレバ、トテ其御品ヲ賜ハリシト
 云フ。

圖書寮

今度ハ五十三日間ノ長キ御旅行ナレドモ、一日トテ
 モ御不例モ在ラセラレズ、御機嫌屢敷御健康日ニ勝
 レサセラレ、御旅行ノ道スガテ東京トハ人民ノ風俗
 山川ノ景色等異ナレバ、御見聞上ニ於テ都鄙風俗ノ
 異同ヨリ、山海・田野・村落等ノ地理ニ至ル迄、御
 感覺ヲ新ニシ玉ヒシコトモ多カラシ。殊ニ東京ニハ
 一月以來惡寒流行ノ折柄ナレバ、御旅行ハ最モ好都
 合ニアラセラレ、還啓後モ引續キ學習院ニ御通學ア
 ラセラレ、昨年九月始業ヨリ一日モ御缺席アラセラ
 レズ候ヘバ、先ノ第二學期ノ試験ニハ御同級生拾六

東京ノ惡寒流行

下旬近衛ニ轉任シ、殿下還啓ノ後始テ御機嫌伺ニ出
 デ拜謁仰付ラレシ節、殿下御用品ノ提籠ヲ賜ハリ、
 暫時默然トシテ御机ニ向ハセラレシカバ、長瀬ハ拜
 辭シテ侍從ノ詰所ニ退キシニ、少時ニシテ再ビ召サ
 セラレ、御學問所ニ御出アラセラレ劍製ノ鴛鴦ト鷹
 トヲ賜ハリ、之ヲ小供ニ遣レト仰セラレタリ。長瀬
 ハ難有キ思召ナレドモ、殿下ハ當時動物ヲ御學ビア
 ラセラルル故ト云ヒモアヘズ、殿下ハ余ハ既ニ此等
 ノ鳥類ヲ學ビ終リタレバ、トテ其御品ヲ賜ハリシト
 云フ。

圖書寮

今度ハ五十三日間ノ長キ御旅行ナレドモ、一日トテ
 モ御不例モ在ラセラレズ、御機嫌麗敷御健康日ニ勝
 レサセラレ、御旅行ノ道スガラ東京トハ人民ノ風俗
 山川ノ景色等異ナレバ、御見聞上ニ於テ都鄙風俗ノ
 異同ヨリ、山海・田野・村落等ノ地理ニ至ル迄、御
 感覺ヲ新ニシ玉ヒシコトモ多カラシ。殊ニ東京ニハ
 一月以來惡寒流行ノ折柄ナレバ、御旅行ハ最モ好都
 合ニアラセラレ、還啓後モ引續キ學習院ニ御通學ア
 ラセラレ、昨年九月始業ヨリ一日モ御缺席アラセラ
 レズ候ヘバ、先ノ第二學期ノ試験ニハ御同級生拾六

忘感流力ハ五三ニ後ハモカ
 又又又

3201 300

還啓

名ノ内 [redacted] ノ位置ヲ占メサセラレタリ。
 斯クテ日々御機嫌麗シク、五十有餘日ノ間一日ト雖モ
 御違例ノ事ナク御健康ニテ修學ニ勵マセラレ、傍ラ山野・
 海濱・村落ノ風物ニ親ミ給ヒテ御豫定ノ日子ヲ費シ、三
 月一日午前八時人力車ニテ熱海御用邸ヲ御出門、國府津
 停車場ヨリ汽車ニテ新橋停車場ニ向ハセラルル途、大磯
 停車場ニ於テ御妹昌子。房子兩内親王ニ御對面アリ、午
 後五時四十分新橋停車場ニ著カセラル。天皇。皇后御使
 侍從子爵富小路敬直。侍從試補廣幡忠朝。皇太后御使皇
 太后宮亮林直庸ヲ始メ守正王。邦芳王以下諸員ノ奉迎ヲ

圖書寮

供奉員

受ケ、六時八分御機嫌麗シク還啓アラセラル。二日參内、
 夫ヨリ青山御所ニ參候、天皇。皇后。皇太后ニ奏啓、御
 土産品等ヲ進獻アラセラル。因ニ還啓御豫定ハ二月十八
 日ナリシガ、時恰モ感冒流行セルヲ以テ斯ク變更アラセ
 ラレタルナリ。
 猶ホ御遊幸中供奉ヲ命ゼラレタル主ナル者ハ東宮大夫
 子爵會我祐準。東宮侍從長侯爵中山孝麿。東宮侍從勘解
 由小路資承。同子爵大宮以季。同子爵小笠原長育。東宮
 武官澁谷在明。同長瀬良行。同岡崎生三。同橋周太。同
 公爵鷹司照通。東宮職御用掛丸尾錦作。侍醫原田豊。同

補入
 春の季節
 直マリ
 帰るナリ

御用掛

御所ヨリ前番ニ就
 何レニモ誤ラズ

帰るナラ

還啓

名ノ内 [] ノ位置ヲ占メサセラレタリ。
 斯クテ日々御機嫌麗シク、五十有餘日ノ間一日ト雖モ御違例ノ事ナク御健康ニテ修學ニ勵マセラレ、傍ラ山野海濱。村落ノ風物ニ親ミ給ヒテ御豫定ノ日子ヲ費シ、三月一日午前八時人力車ニテ熱海御用邸ヲ御出門、國府津停車場ヨリ汽車ニテ新橋停車場ニ向ハセラルル途、大磯停車場ニ於テ御妹昌子。房子兩内親王ニ御對面アリ、午後五時四十分新橋停車場ニ着カセラル。天皇。皇后御使侍從子爵富小路敬直。侍從試補廣幡忠朝。皇太后御使皇太后宮亮林直庸ヲ始メ守正王。邦芳王以下諸員ノ奉迎ヲ

供奉員

受ケ、六時八分御機嫌麗シク還啓アラセラル。二日參内、夫ヨリ青山御所ニ參候、天皇。皇后。皇太后ニ奏啓、御土産品等ヲ進獻アラセラル。因ニ還啓御豫定ハ二月十八日ナリシガ、時恰モ感冒流行セルヲ以テ斯ク變更アラセラレタルナリ。
 猶ホ御避寒中供奉ヲ命ゼラレタル主ナル者ハ東宮大夫子爵會我祐準。東宮侍從長侯爵中山孝麿。東宮侍從勘解由小路資承。同子爵大宮以季。同子爵小笠原長育。東宮武官澁谷在明。同長瀬良行。同岡崎生三。同橋岡太。同公爵鷹司照通。東宮職御用掛丸尾錦作。侍醫原田豊。同

名ノ内 [redacted] ノ位置ヲ占メサセラレタリ。

斯クテ日々御機嫌麗シク、五十有餘日ノ間一日ト雖モ御違例ノ事ナク御健康ニテ修學ニ勵マセラレ、傍ラ山野・海濱・村落ノ風物ニ親ミ給ヒテ御豫定ノ日子ヲ費シ、三月一日午前八時人力車ニテ熱海御用邸ヲ御出門、國府津停車場ヨリ汽車ニテ新橋停車場ニ向ハセラルル途、大磯停車場ニ於テ御妹昌子。房子兩内親王ニ御對面アリ、午後五時四十分新橋停車場ニ著カセラル。天皇。皇后御使侍從子爵富小路敬直。侍從試補廣幡忠朝。皇太后御使皇太后宮亮林直庸ヲ始メ守正王。邦芳王以下諸員ノ奉迎ヲ

圖書寮

明治二十四年一月
御違例ハ先、¹布異例トアル
色所ヨリ前着ニ統一セシム、存付案
何レニテモ誤コハ非サルナリ
セウ

供奉員

受ケ、六時八分御機嫌麗シク還啓アラセラル。二日參内、夫ヨリ青山御所ニ參候、天皇。皇后。皇太后ニ奏啓、御土産品等ヲ進獻アラセラル。因ニ還啓御豫定ハ二月十八日ナリシガ、時恰モ感冒流行セルヲ以テ斯ク變更アラセラレタルナリ。

猶ホ御遊宴中供奉ヲ命ゼラレタル主ナル者ハ東宮大夫子爵會我祐準。東宮侍從長侯爵中山孝麿。東宮侍從勸解由小路資承。同子爵大宮以季。同子爵小笠原長育。東宮武官澁谷在明。同長瀬良行。同岡崎生三。同橋周太。同公爵鷹司照通。東宮職御用掛丸尾錦作。侍醫原田豊。同

元田永孚 薨

加藤照磨。御學友西郷從義。同甘露寺受長。同高崎益彦等ナリ。侍從長佐官日記。行啓錄。官報。高辻修長日記。侍從職日録。皇太后宮職日記。

二十四日、東宮武官陸軍歩兵中尉長瀬良行ノ本職ヲ免ジ、近衛歩兵第二聯隊附ニ轉補シ、近衛歩兵第四聯隊附陸軍歩兵少尉橋周太ヲ東宮武官ニ轉補ス。猶ホ良行ニ賜物アリ。職員履歷。贈賜錄。官報。

二十六日、樞密顧問官從二位勳二等男爵元田永孚去ル二十二日薨セルニヨリ、是ノ日御使東宮武官公爵鷹司照通ヲ其ノ邸ニ遣シ、祭料金參百圓ヲ賜フ。永孚ハ肥後國熊本ノ藩士ニシテ、字ハ子中、東野。東阜ト號ス。漢

圖書寮

三條實美 薨

學ニ精通シ、人ト爲リ極メテ温厚謹嚴ナリ。明治四年官中ニ奉仕以來、侍讀。侍講。皇后宮大夫。宮中顧問官。樞密顧問官等ニ任ゼラレ、其ノ間、帝國憲法。皇室典範ノ成案ニ參畫シ、或ハ教育勅語ノ草案ニ參與ス。殊ニ明宮御學問所設置以來學習院御入學ニ至ル迄、修身書トシテ御使用ノ幼學綱要ヲ勅命ヲ奉ジテ編纂シ、屢々其ノ講筵ニ侍セリ。是ノ月二十一日危篤ノ報天聽ニ達スルヤ、軫念アラセラルル事深ク、多年ノ勳功ヲ思召シ、特ニ男爵ヲ授ケラル。侍從武官日記。贈賜錄。官報。

二月十八日、内大臣從一位大勳位公爵三條實美危篤ニ

補入
三條實美
永孚ハ肥後國熊本ノ藩士ニシテ、字ハ子中、東野。東阜ト號ス。

三條實美

元田永孚 薨

加藤照磨。御學友西郷從義。同甘露寺受長。同高崎益彦等ナリ。侍從長佐官日記・行啓錄・官報・高辻修長日記・侍從職日録・皇太后宮職日記

二十四日、東宮武官陸軍歩兵中尉長瀬良行ノ本職ヲ免ジ、近衛歩兵第二聯隊附ニ轉補シ、近衛歩兵第四聯隊附陸軍歩兵少尉橋周太ヲ東宮武官ニ轉補ス。猶ホ良行ニ賜物アリ。職員履歷・贈賜錄・官報

二十六日、樞密顧問官從二位勳二等男爵元田永孚去ル二十二日薨ゼルニヨリ、是ノ日御使東宮武官公爵鷹司照通ヲ其ノ邸ニ遣シ、祭料金參百圓ヲ賜フ。永孚ハ肥後國熊本ノ藩士ニシテ、字ハ子中、東野。東臯ト號ス。漢

永孚の事、永孚の事、永孚の事

三條實美 薨

學ニ精通シ、人ト爲リ極メテ温厚謹嚴ナリ。明治四年官中ニ奉仕以來、侍讀。侍講。皇后宮大夫。宮中顧問官。樞密顧問官等ニ任ゼラレ、其ノ間、帝國憲法。皇室典範ノ成案ニ參畫シ、或ハ教育勅語ノ草案ニ參與ス。殊ニ明宮御學問所設置以來學習院御入學ニ至ル迄、修身書トシテ御使用ノ幼學綱要ヲ勅命ヲ奉ジテ編纂シ、屢々其ノ講筵ニ侍セリ。是ノ月二十一日危篤ノ報天聽ニ達スルヤ、軫念アラセラルル事深ク、多年ノ勳功ヲ思召シ、特ニ男爵ヲ授ケラル。侍從武官日記・贈賜錄・官報

二月十八日、内大臣從一位大勳位公爵三條實美危篤ニ

ヨリ、御使東宮侍從長候齋中山孝磨ヲ其ノ邸ニ遣シ存問セシム。午後七時十五分薨ズ。仍リテ二十四日御使侍從勘解由小路資承ヲシテ祭料金五百圓ヲ賜ヒ、二十五日葬儀ニ當リ再ビ同侍從ヲ其ノ邸竝ビニ音羽護國寺ノ墓所ニ遣シ玉串ヲ供セシム。實美、維新ノ大業ニ參畫シ、太政大臣ニ任ゼラレ、尋イデ内大臣ニ轉ジ、時ニ内閣總理大臣ヲ兼ネ、克ク輔弼ノ重任ヲ致セリ。天皇、病篤キヲ聞召シ宸念止マズ、直ニ病床ニ臨幸、御手ヅカラ正一位ノ位記ヲ授ケ優渥ナル勅語ヲ賜フ。薨ズルヤ三日間ノ廢朝ヲ命ジ、國葬ノ禮ヲ賜フ。

侍從武官日記・贈賜錄・儀式祭典錄・行啓錄・官報

圖書寮

宸念ニテ可ナク
非ナカ

上野公園ニ
行啓

三條實美
年譜

三月十五日、午前十時御出門、上野公園ニ行啓、帝國博物館ヲ御巡覽、尋イデ華族會館ニテ^御晝餐ノ後、動物園ヲ御巡遊、歸途青山御所ニ參候アリ、午後三時五分還啓アラセラル。爾後、上野公園行啓ノ事屢々アリ。

官報・侍從長・佐官日記

十六日、陸軍歩兵大佐從五位勳四等山本清堅卒セルニヨリ、祭料金百圓ヲ賜フ。清堅ハ明治二十年十月ヨリ二十二年三月迄側近ニ奉仕セルヲ以テナリ。

侍從長佐官日記・贈賜錄

侍
連
二

ヨリ、御使東宮侍從長侯爵中山孝麿ヲ其ノ邸ニ遣シ存問セシム。午後七時十五分薨ズ。仍リテ二十四日御使侍從勘解由小路資承ヲシテ祭料金五百圓ヲ賜ヒ、二十五日葬儀ニ當リ再ビ同侍從ヲ其ノ邸竝ビニ音羽護國寺ノ墓所ニ遣シ玉串ヲ供セシム。實美、維新ノ大業ニ參畫シ、太政大臣ニ任ゼラレ、尋イデ内大臣ニ轉ジ、時ニ内閣總理大臣ヲ兼ネ、克ク輔弼ノ重任ヲ致セリ。天皇、病篤キヲ聞召シ宸念止マズ、直ニ病床ニ臨幸、御手ヅカラ正一位ノ位記ヲ授ケ優渥ナル勅語ヲ賜フ。薨ズルヤ三日間ノ廢朝ヲ命ジ、國葬ノ禮ヲ賜フ。

侍從武官日記・贈賜錄・儀式祭典錄・行啓錄・官報

圖書寮

宸念ニテ可ナリヤ
轉念ニハ
非ケルカ

三條實
獎年譜

三月十五日、午前十時御出門、上野公園ニ行啓、帝國博物館ヲ御巡覽、尋イデ華族會館ニテ^御盃餐ノ後、動物園ヲ御巡遊、歸途青山御所ニ參候アリ、午後三時五分還啓アラセラル。爾後、上野公園行啓ノ事屢々アリ。

官報・侍從長・日記官

十六日、陸軍歩兵大佐從五位勳四等山本清堅卒セルニヨリ、祭料金百圓ヲ賜フ。清堅ハ明治二十年十月ヨリ二十二年三月迄側近ニ奉仕セルヲ以テナリ。

侍從長佐官日記・贈賜錄

3201 307

明治二十四年三月

二〇

各旅團長ニ
賜ヲ賜フ

二十日、午後三時、歩兵第二旅團長陸軍少將西寛二郎
以下第十二旅團長ニ至ル十一名、竝ビニ陸軍軍醫總監石
黒忠恵ヲ召シ謁ヲ賜フ。侍從長佐官日記・官
報・高辻修長日記

是ノ日、夕刻ヨリ輕微ナル御風氣ニ懼ラセラレ、爾後、

三日間學習院ヲ御休學アラセラル。侍從武官日記・侍醫
局御容體日記・高辻

修長
日記

美術展覽會
等ヲ御巡覽

二十九日、午前十時御出門、上野公園ニ於テ開催中ナ
ル美術展覽會ニ行啓、副會長細川潤次郎ニ案内セシメ陳
列品ヲ御巡覽、夫ヨリ御徒歩ニテ華族會館ニ臨ミ、盆栽
共進會ノ列品ヲ台覽、御盃餐メ後、動物園ヲ御巡遊、尋イ

圖書寮

學習院行幸
ヲ奉迎

デ青山御所ニ參候アリ、午後二時四十五分還啓アラセラ
ル。侍從長佐官
日記・官報

四月五日、午前十時御出門、小石川植物園ヲ暫時御遊

歩アリテ春色ヲ御觀賞、先年植エ給ヒシ松樹、直々ト成

長セルヲ御覽アラセラレ、更ニ一樹ヲ御手植アリ。歸途、

青山御所ニ參候、午後三時還啓アラセラル。行啓錄・侍
從武官日記

官報・高辻
修長日記

八日、是ヨリ先、學習院ニ於テハ費舍ノ新築既ニ完成
シ、新學制モ亦實施セラレ、諸事略々整頓セルヲ以テ、
院長子爵三浦梧楨行幸ヲ奏請スル處アリ。是ノ日、天皇

明治二十四年四月

二一

補

✓
直々ト成

侍
從
長
日記

✓ 直ヤリ

明治二十四年三月

二〇

各旅團長ニ
謁ヲ賜フ

二十日、午後三時、歩兵第二旅團長陸軍少將西寛二郎以下第十二旅團長ニ至ル十一名、竝ビニ陸軍軍醫總監石黒忠憲ヲ召シ謁ヲ賜フ。侍從長佐官日記・官報・高辻修長日記

是ノ日、夕刻ヨリ輕微ナル御風氣ニ懼ラセラレ、爾後、

三日間學習院ヲ御休學アラセラル。侍從武官日記・侍醫局御容體日記・高辻

修長日記

美術展覽會
等ヲ御巡覽

二十九日、午前十時御出門、上野公園ニ於テ開催中ナル美術展覽會ニ行啓、副會長細川潤次郎ニ案内セシメ陳列品ヲ御巡覽、夫ヨリ御徒歩ニテ華族會館ニ臨ミ、盆栽共進會ノ列品ヲ台覽、御晝餐メ後、動物園ヲ御巡遊、尋イ

圖書寮

學習院行幸
ヲ奉迎

デ青山御所ニ參候アリ、午後二時四十五分還啓アラセラル。侍從長佐官日記・官報

四月五日、午前十時御出門、小石川植物園ヲ暫時御遊

歩アリテ春色ヲ御觀賞、先年植エ給ヒシ松樹、直々ト成

長セルヲ御覽アラセラレ、更ニ一樹ヲ御手植アリ。歸途、

青山御所ニ參候、午後三時還啓アラセラル。行啓録・侍從武官日記

官報・高辻修長日記

八日、是ヨリ先、學習院ニ於テハ覺舎ノ新築既ニ完成

シ、新學制モ亦實施セラレ、諸事略々整頓セルヲ以テ、

院長子爵三浦梧棲行幸ヲ奏請スル處アリ。是ノ日、天皇

明治二十四年四月

二一

讀本素讀及
ビ徒手體操
ヲ天覽ニ供
シ給フ

午前九時三十分同院ニ行幸アラセラル。車駕院内ヲ通御
アルヤ、皇太子ハ一般生徒ト共ニ門内ニ整列、「君ガ代」
ヲ唱ヒテ奉迎、著御ノ後、便殿ニ於テ謁セラル。天皇、
各教室ヲ御巡覽、皇太子ノ教室ニ及バセラル。偶々讀書
ノ時間タリ。皇太子即チ尋常小學讀本、楠木正成ノ條ヲ
濫滯ナク御讀了アリ。後、運動場ニ於テ徒手體操ヲ天覽
ニ供シ給フ。其ノ態鮮ナルヲ以テ觀感斜ナラズ、天顏麗
シク午後三時四十分還幸アラセラル。鳳駕ヲ奉送アラセ
ラルル事前ノ如シ。尋イデ皇太子モ亦還啓アラセラル。
侍從長佐官日記。
學習院史。官報。

圖書寮

習志野原御
獵場ニ於テ
御遊獵

十日、兎狩ヲ御催ノ爲、午前八時御出門、千葉縣習志
野御料地ニ行啓アラセラル。途次、西小松川村ナル矢澤
孫右衛門方ニテ御少憩アリ、尋イデ伊豫田村川岸ニ於テ
市川ノ渡船ニ乗ラセラル。聖旨ヲ奉ジ騎馬ニテ供奉セル
侍從子爵東園基愛。侍從試補日野西勇磨ハ此ノ地ニ於テ
御乗船ヲ奉送ス。九時十五分市川驛ナル富田仁兵衛方ニ
於テ再ビ御少憩、奉迎ノ千葉縣知事藤島正健以下ニ謁ヲ
賜ヒ、更ニ馬車ヲ驅ラシムルコト三里二十七町餘、十一
時十分東葛飾郡二宮村大字藥園臺新田ナル穴倉七右衛門
方ニ御著、主獵局長山口正定以下主獵官ニ謁ヲ賜フ。盡

餐後、人力車ニテ御獵場ニ臨ミ、遊獵凡ソ五回、兎三十
 三羽ヲ獲サセラル。中一羽ハ親シク御捕獲アリシ處ナリ。
 更ニ放鷹ヲ台覽アリ。五時ニ及ビテ宍倉方ニ還啓、御一
 泊アラセラル。翌十一日午前五時四十五分御出獵、午前
 兎狩四回、放鷹一回、午後兎狩二回アリ。守正王ヲ始メ
 學習院生徒等ヲシテ勢子ニ當ラシム。偶々伺候セル第二
 旅團長陸軍少將西寛二郎以下ニ兎一羽ヲ賜フ。午後一時
 四十五分御旅館ヲ御出門、還啓ノ途ニ就カセラル。其ノ
 行略、往路ノ如シ。猶ホ市川ヨリハ命ヲ奉ジテ奉迎ノ侍
 從子爵北條氏恭・侍從試補廣幡忠朝騎馬ニテ供奉ズルコ

圖書寮

供奉員

ト又御出發時ニ於ケルガ如シ。五時十分至極御滿悅ニテ
 還啓アラセラル。十二日參内、狀ヲ親シク奏啓、捕獲物
 等ヲ進獻アラセラル。此ノ行、供奉ヲ命ゼラレタル者ハ
 東宮大夫子爵曾我祐準。東宮侍從長候爵中山孝麿。東宮
 侍從勘解由小路資承。同子爵大宮以季。東宮武官岡崎生
 三。同橋周太。同公爵鷹司照通。東宮職御用掛丸尾錦作。
 侍醫原田豊。御學友西郷從義。同一柳剛等ナリ。
侍從長 佐官日
記・侍從職日録・行啓録・高辻
修長日記・侍從職日録・行啓録・官報
 十二日、午前九時御出門、參内ノ後、南豊島御料地ノ
 内字新宿ニ行啓、午後二時三十分還啓アラセラル。爾後、

御料地ニ行啓

御料地ニ行

御料地名改稱

各御料地ニ行啓アラセラレタル事度アルヲ以テ左ニ掲グベシ。

五月六日 南豊島御料地之内字新宿

九月廿七日 同 代々木

十一月十五日 同 新宿

因ニ本年一月十五日南豊島第一御料地以下第二・第三・第四・第七ノ御料地名ハ改稱セラレ、所在ノ字名ヲ以テシ、便宜上之ヲ五區ニ分ツ。表示スレバ左ノ如シ。行啓侍從武官日記・土地建物録・官報・御料局例規録

新名稱

舊名稱

圖書寮

海軍大學校ニ行啓

十五日、午前八時三十分御出門、築地ナル海軍大學校ニ行啓、樓上御休所ニ於テ御少憩、校長海軍中將林清康以下將校。教授。雇外國人等ニ謁ヲ賜ヒテ後、同校附屬ノ小蒸汽船ニテ大川筋ヨリ千住大橋迄溯航セシメラレ、御晝餐ノ後校舎ヲ御巡覽、造船學。化學。水雷術等ノ説明ヲ聞カセラル。歸途、青山御所ニ參候アリ、午後二時二

南豊島御料地之内字新宿	南豊島第一御料地
同 算間谷	同 第二御料地
同 羽澤	同 第三御料地
同 常磐松	同 第四御料地
同 代々木	同 第七御料地

ラレ、御晝餐

東京砲兵工
廠。後樂園
ニ行啓

十五分還啓アラセラル。 行啓録・侍從長
佐官日記・官報

十九日、午前十時御出門、邦芳王ヲ伴ヒテ小石川ナル
東京砲兵工廠内後樂園ニ行啓、御晝餐ノ後、同工廠内小銃
製造室等ヲ御巡覽アリ、午後二時三十分還啓アラセラル。
爾後、六月十四日。八月三十日。十一月二十三日ニモ亦
行啓アリ。 行啓録・侍從長佐官日記・
侍從武官日記・官報

官邸ニ行啓

二十日、午後三時御出門、伏見官邸ニ行啓、庭内ヲ御
遊歩ノ後、乗馬運動等御覽アリ、四時十分還啓アラセラ
ル。猶ホ四月二十六日ニハ有栖川官邸ニ、七月六日ニハ
北白川官邸ニ、八月二十三日ニハ閑院官邸ニ行啓アラセ

吉井友實ニ
祭料ヲ賜

ラル。 侍從長佐官日記・
行啓録・官報

露國皇太子
ノ遭難ヲ御
懸念アラセ
ラル

二十四日、樞密顧問官正二位勳一等伯爵吉井友實去ル
二十二日薨去セルニヨリ、是ノ日御使東京宮侍從勸解由小
路資承ヲ遣シ祭料金參百圓ヲ賜フ。友實ハ明治十九年
ヨリ二十四年迄宮内次官トシテ盡力スル處渺カラズ。因
リテ此ノ命アリ。 儀式祭典録・贈
賜録・恩賜録

五月十一日、來朝中ノ露西亞國皇太子にこらす。あれ
きさんどろ。ろうゐつち親王、滋賀縣大津ニ於テ遭難ノ
凶報ヲ聞キ給ヒ、直ニ電報ヲ以テ存問アラセラル。其ノ
文ニ曰ク、

五月十一日皇太子にこらす親王殿下ノ貴體ニ對シ、
兇慮ヲ圖リシモノアリト聞、驚愕憂慮ニ堪ヘス、迅
速御快復アラン事ヲ祈ル。

ト。尋イデ十二日天皇親シク京都ニ行幸アラセラルルヲ
以テ新橋停車場ニ奉送、二十二日還幸ニ當リ同ジク驛頭
ニ奉迎アラセラル。是ヨリ先、皇太子にこらす親王ハ、
浦鹽斯德ニ於ケル鐵道停車場起工式ニ臨ミ極東漫遊ヲ兼
ネテ帝國ニ來航、去ル四月二十七日長崎著港以來、鹿兒
島。神戸ヲ經テ五月九日京都ニ入り、十一日威仁親王以
下接伴員ノ案内ニテ琵琶湖ヲ遊覽シ京都ニ歸還ノ途、大

圖書寮

大津事件

津町ニ於テ護衛巡查津田三藏ノ爲ニ後頭部ヲ傷ケラル。
依リテ威仁親王ハ直ニ委曲ヲ電奏シ、且ツ天皇ノ西下ヲ
奏請ス。天皇モ亦痛ク宸襟ヲ惱シ給ヒ京都ニ行幸、十三
日親シクにこらす親王ヲ旅館ニ御慰問アラセラル。世ニ
大津事件又ハ江南事件ト稱ス。露國皇太子殿下御來航記、
威仁親王行實、外事錄、
高辻修長日
記、官報

十八日、露西亞國皇太子にこらす。あれきさんどろ、
ろうのち親王ノ誕辰ニヨリ特ニ電報ヲ發送アラセラル。
其ノ文ニ曰ク、

殿下ノ誕辰ニ際シ、恭シク祝詞ト敬意ヲ表ス。

五月十一日皇太子にこらす親王殿下ノ貴體ニ對シ、
兇慮ヲ圖リシモノアリト聞、驚愕憂慮ニ堪ヘス、迅
速御快復アラン事ヲ祈ル。

ト。尋イデ十二日天皇親シク京都ニ行幸アラセラルルヲ
以テ新橋停車場ニ奉送、二十二日還幸ニ當リ同ジク驛頭
ニ奉迎アラセラル。是ヨリ先、皇太子にこらす親王ハ、
浦鹽斯德ニ於ケル鐵道停車場起工式ニ臨ミ極東漫遊ヲ兼
ネテ帝國ニ來航、去ル四月二十七日長崎著港以來、鹿兒
島。神戸ヲ經テ五月九日京都ニ入り、十一日威仁親王以
下接伴員ノ案内ニテ琵琶湖ヲ遊覽シ京都ニ歸還ノ途、大

大津事件

津町ニ於テ護衛巡查津田三藏ノ爲ニ後頭部ヲ傷ケラル。
依リテ威仁親王ハ直ニ委曲ヲ電奏シ、且ツ天皇ノ西下ヲ
奏請ス。天皇モ亦痛ク宸襟ヲ惱シ給ヒ京都ニ行幸、十三
日親シクにこらす親王ヲ旅館ニ御慰問アラセラル。世ニ
大津事件又ハ江南事件ト稱ス。露國皇太子殿下御來航記、
威仁親王行實、外事錄、
高辻修長日
記・官報

十八日、露西亞國皇太子にこらす。あれきさんどろ、
ろうのち親王ノ誕辰ニヨリ特ニ電報ヲ發送アラセラル。
其ノ文ニ曰ク、

殿下ノ誕辰ニ際シ、恭シク祝詞ト敬意ヲ表ス。

ト。後刻、同皇太子ヨリ答禮ノ電報ヲ受ケサセラル。圖露
皇太子殿下
御來航記

二十一日、威仁親王並ビニ貞愛親王ヲ午餐ニ召シ御會
食、威仁親王ヨリ露西亞國皇太子遭難ノ真相ヲ聽聞アラ
セラル。侍從長佐官日記・典
式錄・高辻修長日記

二十四日、午前七時三十分御出門、江ノ島。鎌倉ニ行
啓、川口村洲鼻ヨリ御徒歩ニテ海濱ニ出デサセラレ、引
網ヲ台覽、尋イデ東宮大夫子爵會我祐準ノ別邸ニ於テ
餐メ後、岩屋明神等ヲ御遊覽、再ビ會我別邸ニ御少憩ア
リ。午後一時御發程、長谷大佛ヲ過ギ三時二十六分鎌倉

江ノ島・鎌
倉御遊覽

圖書寮

行啓ノ供奉
員治定

停車場御發車、五時四十分御機嫌廳シク還啓アラセラル。
行啓錄・庶務課日記・
高辻修長日記・官報
二十五日、皇太子屢々各地ニ行啓アラセラルヲ以テ、
是ノ日供奉員ノ數ヲ定ムル事左表ノ如シ。爾後、本表ニ
則ル。例規

御二泊以上御遊行供奉定員表（明治二十四年五月二十五日決議）

役名	御二泊以上	御三泊以上	温泉 御浴場	百里以上 各地御過回	備考
大亮	一	一	一	一	御浴場行啓四週間以上ノ 節大夫供奉ナレハ御浴場中 亮出張供奉スルコトアルヘシ

明治二十四年五月

内 合 人	官 丁	庖 丁	藥 丁	使 夫	合 計	御 料 乘 馬	區 下 乘 馬	御 料 馬 車	區 下 馬 車	合 計
二	二	一	〇	二	一六	〇	〇	一	一	二
二	二	二	一	二	二〇	〇	〇	一	一	二
二 二 (三)	三	二	一	三	二五	一	二	〇	〇	三
三	四	三	一	三	三〇	〇	〇	一	一	二
同上但疊中行啓ハ三名トス	同上	同上		行啓先ノ都合ニヨリ定員ヲ増減スルコトアルヘシ		御用ノ都合ニヨリ増減スルコトアルヘシ		御用ノ都合ニヨリ増員スルコトアルヘシ		

三五

明治二十四年五月

役 名	侍 從 長	高 級 武 官	侍 從	武 官	侍 醫	學 習 院 教 授	御 學 友	屬 官
御一泊以上 御二泊迄	一		三		一	〇	二	一
御三泊以上 一週間迄	一		四		一	〇	二	二
温泉 御浴場 海水	一 (二)		二	二	二	一	三	二
百里以上 各地御巡回	一	一	二	二	二	〇	三	三
備 考	御浴場行啓週間以上ノ節ハ日數ノ半ニテ交代供奉スルヲ例トス 疊中行啓ニハ二名トス 軍事ニ係ル行啓ノ節ハ高級武官供奉スルモノトス 御浴場行啓週間以上ノ節ハ侍從武官ノ半ハ日數ノ半ヲ交代供奉スルヲ例トス 御學問上ノ必要アルトキニ限ル 行啓先ノ都合ニヨリ定員ヲ増減スルコトアルヘシ							

圖書寮

三四

皇后御誕辰
ニヨリ参内

二十八日、皇后御誕辰ニヨリ午後一時三十分御出門参内、皇后ニ祝詞ヲ啓シ、三時二十分還啓アラセラル。コレヲ以テ立太子後、最初ノ御儀トナス。昨年ハ御違例ニ

役名	御一泊以上	御二泊以上	湯泉御湯場	百里以上	備考
御二泊迄	二	二	一	二	同上且御馬車御乗馬ヲ要セラルトキハ取者御馬手以下ヲ除クヘシ
御一泊迄	二	二	一	二	
湯泉御湯場	一	一	一	一	
百里以上	一	一	一	一	
各所御巡回	一	一	一	一	
合計	八	九	六	一〇	
附言	御用都合アリ必要ト認ムルトキハ其都度増員スルコトアルヘシ				

圖書寮

第一師團騎兵第一大隊
ニ行啓

ヨリ、此ノ事ナカリシガ、爾後、毎年恒例タリ。侍従武官日記。皇后官職日記・高辻修長日記・官報

六月一日、午後二時十分御出門、荏原郡上目黒村ナル第一師團騎兵第一大隊ニ行啓、將校ニ謁ヲ賜ヒ、夫ヨリ障碍飛越。馳走輕乘。駐立輕乘。器械體操。角力。軍馬乗船法等ヲ台覽アリ。御少憩後、更ニ兵舎。鹿舎等ヲ御巡覽、五時二十分還啓アラセラル。爾後、教練並ビニ兵舎御見學ノ事多シ。列舉スレバ左ノ如シ。侍従長佐官日記・行啓録。

六月五日

第一師團野戰砲兵第一聯隊。同輜重

補
✓

皇后御誕辰
ニヨリ参内

役名	取車騎馬手	馬醫鑄鐵工	馬丁後制	磨方	馬丁	合計	附言
御一泊以上 御二泊迄	二	〇	一	一	四	八	御用都合アリ必要ト認ムルトキハ共都度増員スルコトアルヘシ
御三泊以上 一週同迄	二	一	一	一	四	九	
温泉 御湯場	一	一	一	〇	三	六	
百里以上 各地御廻回	二	一	一	一	五	一〇	
備考	同上且御馬車御乗馬ヲ要セラルトキハ取車騎馬手以下ヲ除クヘシ						

二十八日、皇后御誕辰ニヨリ午後一時三十分御出門参内、皇后ニ祝詞ヲ啓シ、三時二十分還啓アラセラル。コレヲ以テ立太子後、最初ノ御儀トナス。昨年ハ御違例ニ

第一師團騎兵第一大隊
ニ行啓

ヨリ、此ノ事ナカリシガ、爾後、毎年恒例タリ。侍従武官日記
皇后宮職日記・高辻修長日記・官報

六月一日、午後二時十分御出門、荏原郡上目黒村ナル第一師團騎兵第一大隊ニ行啓、將校ニ謁ヲ賜ヒ、夫ヨリ障碍飛越。馳走輕乘。駐立輕乘。器械體操。角力。軍馬乗船法等ヲ台覽アリ。御少憩後、更ニ兵舎。庶舎等ヲ御巡覽、五時二十分還啓アラセラル。爾後、教練並ビニ兵舎御見學ノ事多シ。列舉スレバ左ノ如シ。侍従長佐官日記・行啓録。

六月五日

第一師團野戰砲兵第一聯隊。同輜重

東宮武官官制改正

六月八日 兵第一大隊
 第一師團歩兵第一聯隊。同歩兵第三聯隊

同 廿八日 近衛歩兵第四聯隊

九月廿五日 近衛歩兵第一聯隊

十二日、東宮武官官制ヲ改正シ、初メテ東宮武官長ヲ置キ、皇太子獎匡輔弼ノ責ニ任ゼシム。尋イデ近衛歩兵第一旅團長陸軍少將從四位勳三等奧保鞏ノ本職ヲ免ジ、東宮武官長ニ補シ、東宮職一切ノ事務ヲ攝理セシム。十月十九日參謀本部第一局員陸軍砲兵大尉宮本照明、第

東宮職官官制改正

五師團參謀陸軍歩兵少佐中村覺ヲ東宮武官ニ轉補シ、右ノ内、宮本照明ヲ參謀官ト心得シメラル。是ノ日、東宮武官陸軍砲兵中佐岡崎生三ハ休職トナレリ。後、生三ニ例ノ如ク賜物アリ。侍從長佐官日記・總務課
進退録・例規録・官報

十三日、東宮職官制ヲ改正、大夫。亮ヲ廢シ、主事。主事補ヲ置ク。仍リテ陸軍中將從三位勳一等子爵曾我祐準ヲ宮中顧問官ニ任ジ、御教養主任ヲ免ジ、正三位勳四等子爵高辻修長ヲ東宮主事ニ任ズ。尋イデ十二月二十二日修長ヲ帝室會計審査官兼帝室會計審査局主事ニ轉ゼシメ、帝室會計審査官兼帝室會計審査局主事從五位勳五等

各集

明治二十四年六月

四〇

陸軍幼年學校卒業式ニ
台臨

足立正聲ヲ之ニ代フ。侍從武官日記・職官錄・總務課退
長佐官日記・官報・高辻修長日記・侍從
例規錄

二十日、午後一時御出門、陸軍幼年學校ニ行啓、參校ノ熾仁親王以下各將校ヲ始メ諸員竝ビニ雇外國人等ニ闢ヲ賜ヒ、畢リテ練兵場ニ於テ小隊運動。器械體操。乘馬等ヲ台覽、更ニ講堂ニテ優等卒業生徒平瀬又雄ノ倫理、土方久路。木内末男ノ物理ノ御前講義ヲ御聽取アリ、更ニ博物室。生徒室等ヲ御巡覽後、卒業式場練兵ニ台臨、前記優等卒業生三名ニ雙眼鏡ヲ賜ヒ、三時五十分還啓アラセラル。行啓錄・侍從長
佐官日記・官報

圖書寮

高輪御殿ニ
行啓

芝離宮ニ
后ヲ訪ハセ
ラル

二十一日、御妹昌子。房子兩内親王去ル六月七日高輪御料地内ニ竣工セル新御殿ニ移徙ス。仍リテ三種交着壹折ヲ御祝トシテ進ゼラレシガ、是ノ日午前十時御出門、高輪御殿ニ行啓アリ。兩内親王ニ御對面、種々御遊戯アラセラレ、晝餐ヲ御會食後、御庭等御覽アリ。午後二時四十五分還啓アラセラル。尋イデ七月九日ニモ亦コノコトアリ。侍從長佐官日記・
官報・行啓錄

二十五日、皇后、御病後ノ御靜養トシテ芝離宮ニ行啓、七月十七日マデ約三週間御滯留アラセラルルヲ以テ、學習院ヨリ直ニ參内、天皇。皇后ニ謁シ、北御車寄ニ於テ

明治二十四年六月

四一

明治二十四年六月

四〇

陸軍幼年學校卒業式ニ
台臨

足立正聲ヲ之ニ代フ。侍從武官日記・職官録・總務課退
長佐官日記・官報・高辻修長日記・侍從
例規録

二十日、午後一時御出門、陸軍幼年學校ニ行啓、參校ノ熾仁親王以下各將校ヲ始メ諸員並ビニ雇外國人等ニ賜ヲ賜ヒ、畢リテ練兵場ニ於テ小隊運動。器械體操。乘馬等ヲ台覽、更ニ講堂ニテ優等卒業生徒平瀨又雄ノ倫理、土方久路。木内末男ノ物理ノ御前講義ヲ御聽取アリ、更ニ博物室。生徒室等ヲ御巡覽後、卒業式場練兵ニ台臨、前記優等卒業生三名ニ雙眼鏡ヲ賜ヒ、三時五十分還啓アラセラル。行啓録・侍從長
佐官日記・官報

圖書寮

高輪御殿ニ
行啓

芝離宮ニ皇
后ヲ訪ハセ
ラル

二十一日、御妹昌子。房子兩内親王去ル六月七日高輪御料地内ニ竣工セル新御殿ニ移徙ス。仍リテ三種交着壹折ヲ御祝トシテ進ゼラレシガ、是ノ日午前十時御出門、高輪御殿ニ行啓アリ。兩内親王ニ御對面、種々御遊戯アラセラレ、晝餐ヲ御會食後、御庭等御覽アリ。午後二時四十五分還啓アラセラル。尋イデ七月九日ニモ亦コノコトアリ。侍從長佐官日記・
官報・行啓録

二十五日、皇后、御病後ノ御靜養トシテ芝離宮ニ行啓、七月十七日マデ約三週間御滯留アラセラルルヲ以テ、學習院ヨリ直ニ參内、天皇。皇后ニ謁シ、北御車寄ニ於テ

明治二十四年六月

四一

3201 324

明治二十四年六月

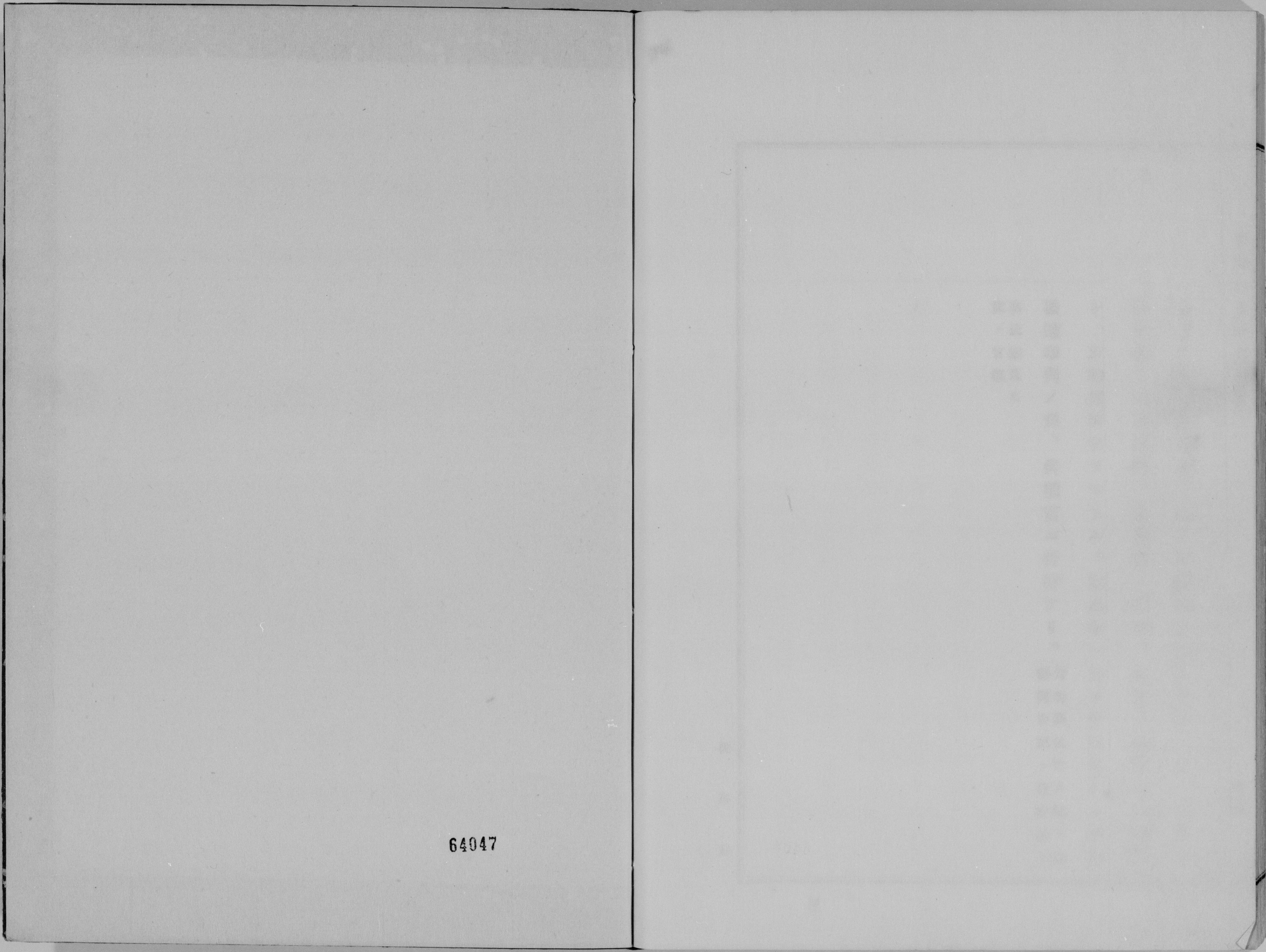
四二

皇后ノ出御ヲ奉送、尋イデ還啓アラセラル。後、七月一日午後二時御出門、芝離宮ニ行啓、皇后ノ御機嫌ヲ奉伺シ、五時還啓アラセラル。猶ホ十一日・十四日ニモ亦御機嫌奉伺ノ爲、同離宮ニ行啓アリ。

侍從長佐官日記・庶
 寮員日記・行啓録・庶
 記・官報

圖書寮

3201 325



64047

3201 326

